

【課題文について】

長田 弘著『読書からはじまる』（2006年、日本放送出版協会）より引用。

問1：筆者は「人は言葉でできている」と述べていますが、それはどういうことですか。課題文に即して200字以内で答えなさい。

【出題の意図と評価のポイント】

筆者の述べている「人は言葉でできている」とは、どういうことかを正確に読み取り、要点を簡潔にまとめることができるかを問う設問であった。「言葉と人の認識の関係」と「言葉は人の素材であること」の2点に触れられていて、文章の精度の高いものを評価した。

【講評】

「言葉と人の認識の関係」と「言葉は人の素材であること」について触れられている解答が多く、概ね良好であった。しかし、課題文を引用しただけの解答、どちらか1点にしか触れられていない解答も散見された。

問2：《不完全さを受け入れる》ことで広がりをもせる《もの》や《こと》を具体的に示し、それについて筆者の主張を踏まえながら800字以内で説明しなさい。

【出題の意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述できるかを問う設問である。

筆者の主張を理解した上で「不完全さ」についてまとめられているもの、適切な事例を挙げて自分の意見を述べているもの、論理的な文章構成で述べているものを高く評価した。

【講評】

広がりをもせる《もの》や《こと》の事例が抽象的であり、「変化すること」や「成長すること」の大切さを述べている解答が多く見受けられた。

筆者の主張を踏まえずに、「教育」や「子ども」を事例として挙げて、自分の意見や経験を述べる解答も散見された。